

第69回 公開講座

塩谷孝太郎の生涯 — 演劇界から部落史研究へ —

日時 2012年5月25日(金) 13:00~14:30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 藤原 有和 (委嘱研究員)

塩谷孝太郎(1901-1955)は、戦後の部落史研究において忘れられた存在となっている。本来、かれは演劇人であったが、ある出会いが機縁となって、戦時下の兵庫県において部落問題の歴史について学問的な関心をもつ。

職務の余暇をその来歴の調査・研究に専念し、敗戦直後、『部落史論考』(同和奉公会兵庫県本部、1945)を上梓している。一方、祖父青木貞三(1858-1889)の学問を継承し、37歳のとき『生存学』(1938)を完成している。

このたび孝太郎の『写真日記』を御遺族の御厚意により閲覧させていただいたので、この『日記』にもとづき、かれの生涯を辿り、部落史研究について紹介したい。

孝太郎は幼少のころ父母と死別したため、祖母に育てられた。少年時代は歌舞伎の松本幸四郎門下の子役松本銀杏、松本幸太郎として舞台に立つが、祖母の死によって、孤立した生活に入り、1918年(大正7)初夏から8年間に及ぶ彷徨一乱読時代一が始まる。仏教書を味読し、文学書に親しみ、思想的にはショウペン・ハウエルの影響を受け、また西行にあこがれていたという。

青年時代、『日記』では、祖父貞三と孝太郎がともに29歳のときの写真を貼り、二人の地位と思想を並べて記している。

地位「孝太郎廿九才の春、俺は此の時、帝劇の名題下にあき足らず旅廻りの青年歌舞伎の親方を経て、宝塚の国民座の幹部になって居た」。

思想「マルクスにかぶれて新興舞踊藤想会を労働者仲間と結成。文学青年仲間と詩人劇場を結成。仏教排除のために其の研究に没頭して居た。物になったのは仏教研究だけ。後は全部アキマエナダ。デモ面白ロオマシタ。わしや長生せふと思ふてまっさかい」。

早世した祖父は最も尊敬する人物であり、良きライバルでもあった。

壮年時代、塩谷家へ養子となる。宝塚音楽歌劇学校の助教授・教授(1934-1942)として舞踏(藤間流)・脚本を担当。宝塚少女歌劇団では、舞踏劇の振付、演出、脚本を担当。「土蜘蛛」、「茨木童子」、明治維新の敗者を主人公とする「明治甚談」などを上演している。

その後、『生存学』の完成によって、「思想上生存上覚醒が定まり方針も確立出来た」ため、宝塚を辞めて神戸の橋通りで旅館の経営をはじめた。そこでのある出会いによって、芸能で得た収入を全部投入し、同朋融和の実現のために国家につくそうと腹が走り、兵庫県下の被差別部落に住み、部落史の研究と青年への教育に情熱を傾けた。

塩谷孝太郎が、『部落史論考』で部落起源説について、当時の文部省見解、喜田貞吉(社会の落伍者説)の批判を試みたこと—「平民」が身分をおとされたとする考え方は、今日も有効であり、とくにその豊かな着想に改めて注目したい。

* * *

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。

手話通訳が必要な場合は、5月10日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。

第71回 10月26日(金) 13:00~14:30 「介護労働者のストレスと離職問題を考える」(仮題)

第72回 11月30日(金) 13:00~14:30 「ドイツにおける異文化共生への新しい取り組み」(仮題)

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室



THINK×ACT
KANSAI
UNIVERSITY

関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>